

## 巻頭言

# 災害と文化財保護法

---

公益財団法人「冷泉家時雨亭文庫」理事長（立命館大学特別招聘教授）

冷 泉 為 人

---

未曾有の「東日本大震災」が平成二十三年三月十一日に起こった。宮城県仙台の三陸沖を震源とするマグニチュード9.0という大地震であった。これに誘発された津波や火災が起こり、殊に津波はその脅威をまざまざと見せつけた。これらにより戦後最大の自然災害となった。ひとつの町村が跡形もないほどの壊滅的な被害を蒙ったのである。役場、警察、消防などの行政を津波が一瞬のうちに呑み込んでしまった。さらに、福島原子力発電所での建屋爆発、放射線漏れがあったりして大々的な災害となった。まだその災害の全容（三月二十日現在）は明らかでないが、その死者、行方不明者を何万人も数えるという大自然災害である。また、この災害は青森県から千葉県にわたる沿岸全域、距離にして700kmをはるかに超える広域に及んでいる。全く、想定外のことが起こった。これが自然災害である。

こうした大災害があった時には、歴史を顧みると、人心や行政の一新を象徴させるための新しい元号にすることがしばしばなされてきた。たとえば、江戸時代後期に禁裏御所や、仙洞・大宮御所などを大火によって焼失した「天明の大火」、「嘉永の大火」後には、「天明」を「寛政」に、「嘉永」を「安政」に、それぞれ改元している。

歴史的な天災、自然災害や人災、人間がかかわる権力闘争などに起因する災害などを記述した日記、物語、いわゆる文学がある。これを象徴する周知なものに『方丈記』『平家物語』などがある。『方丈記』には「大火」「大風（辻風）」「地震」などの天災が記されている。一方、『平家物語』は普く知られている通り平家滅亡、すなわち権力闘争による人災の記述である。

『方丈記』の地震は、元暦二年（1185）七月九日の大地震の記事である。「おびたゞしく大地震振ること侍りき。そのさま、世の常ならず。山は崩れて河を埋み、海は傾きて陸地をひたせり。土さけて水わきいで、巖われて谷にまるびいる」「都のほとりには、在々所々、堂舎塔廟、ひとつとして全またからず。或は崩れ、或は倒れぬ。塵灰立ち上りて、盛りなる煙の如し、地の動き、家の破るゝ音、雷にことならず。家の内にをれば、たちま忽ちにひし

げなんとす」と大地震の一端を記し、「かくおびたゞしく振る事は、しばしにてやみしかども、そのなごりしばしは絶えず」と余震が絶え間なく起こったことをも記述している。

『平家物語』の「南都炎上」は人災の記事。これは、治承四年（1180）も暮れようとする、十二月二十八日の夜八時頃、「在家に火をかけた」ことにより興福寺と東大寺を焼失した大火を次のように記述する。

「東金堂（興福寺）におはします仏法最初の釈迦の像、西金堂におはします自然湧出の觀世音、瑠璃を<sup>なら</sup>竝べし四面の廊、朱丹を交し二階の楼、九輪空に輝きし二基の塔、忽に煙となるこそ悲しけれ」「聖武皇帝、手づからみづから磨き立て給ひし金銅十六丈の廬舎那仏（東大寺）、烏瑟<sup>うしつ</sup>高く顕れて、半天の雲にかくれ、白毫<sup>びやくごう</sup>あらたに拝まれさせ給へる満月の尊容も、御頭<sup>みくし</sup>は焼け落ちて大地にあり、御身<sup>み</sup>は鎔きあひて山の如し」とこれほどの法滅はないと悲嘆している。

天災、人災のいずれにあっても災害は、日本の古代から中世を経て近世に至る間、仏教の無常観による諦念、つまり「しかたない」という思いや「あきらめ」の気持ちによって消化されて安寧を得ていたのである。これを明示するのが前述のそれぞれの文学の巻頭の言である。

すなわち、「ゆく河の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず、よどみに浮ぶうたかたは、かつ消えかつ結びて、久しくとゞまりたるためしなし」（『方丈記』）「祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響あり。沙羅双樹の花の色、盛者必衰の理をあらはす。驕れる者も久しからず、ただ春の夜の夢の如し」（『平家物語』）。

我々日本人は自然とともに親和的に生活し、調和させるところから無常を観て生死を消化していたのである。つまり無常は、文字通り、生あるものは必ず滅び、何一つとして不変、常住のものは無いことをいい、だからこそ何があっても、何が起こっても、それを諦念によって消化する。すなわち、あきらめの境地に達し迷いを去ることが肝要であると考えていたのである。

ところが現代では、今回のような大災害による文化財の被害は、昭和二十五年に制定された「文化財保護法」にもとづいてその保護、及び継承保存がなされることになっている。この法律は国宝保存法、史蹟名勝天然記念物保存法、重要美術品等の保存に関する法律に統一し、文化財全般にわたる指定、管理、保護、活用、調査などを体系的に整備したものである。